

街かど人物館

ボランティア駅長

兵庫県の小野市と加西市の田園地帯を走る第三セクターの北条鉄道（粟生―北条町）は、無人駅の清掃やイベントなどで活性化を担う「ボランティア駅長」を2006年に始めた。

12年から法華口駅長（加西市）を務める北垣美也子さん（38）は、地元の社会福祉法人が駅舎内に開いた米粉パンの工房「モン・ファボレ」の



地域と会社の懸け橋に

店長も兼務。1時間に1往復程度発着する列車を白手袋をはめた手を振って見送る。

「家より駅にいる時間が長い」。四季折々の自然を味わえる環境にほれ込んでいます。桜、ツツジ、稲穂、モミジ。線路脇のエサ場を目当てに飛来する野鳥も多い。登録有形文化財に指定された木造駅舎は乗客や地域住民、遠方から訪れる愛好家の出会いと交流の場でもある。夕方になれば帰宅する高校生らを「おかえり」と出迎える。

同路線は播州鉄道として1915（大正4）年に開業、来年で100周年を迎える。地域住民の駅への思いは会社の経営方針とすれ違うこともあるが、「自分がクッションになり、柔らかく地元伝えていければ」と願う。

石川県白山市の白山温泉郷は、NPO法人の地域活性化支援センター（静岡市）が認定する「恋人の聖地」の一つに選ばれている。その一角にある白山一里野温泉で、ケリエ山荘を経営する蜜谷栄さん（65）は、おかみの会の会長として男女が出会いを求める「恋活パーティー」を開いてきた。

一里野には「縁の谷」とい



石川で「恋活」イベント 社会貢献にもつなげたい

う場所があり、白山が開山したころから短歌を詠み合っただけで、集団見合いをしてきたとされる。蜜谷さんは「良い出会いを求める男女の気持ちは今も昔も同じ」と話す。

1回目は2010年。「当結婚活パーティーは多かったが、参加をためらう人も多かった」と振り返る。「軽い気持ちで集まってほしい」との思いから「恋活」と名付けて出会いの場を提供した。

これまで5回開催。1回につき男女12人ずつが参加する。夏は浴衣に着替えて、地元伝わる、家を建てる前の地固めの風習「へと搦き（つき）」を体験してもらったこともある。蜜谷さんは「また恋活パーティーを開きたい。それが社会貢献につながれば」と笑顔で話す。